

# 第2期津和野町スポーツ推進計画

令和6年3月

津和野町教育委員会

# 目 次

I	序説	
1	計画策定の趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画期間	1
4	計画の目標	2
5	計画の検証	2
II	基本施策	
1	生涯スポーツ・運動の推進と学校体育の充実	
	（1）未就学児の運動あそびの推進	3
	（2）小学・中学・高校生のスポーツ・運動の推進	4
	（3）青年期・壮年期のスポーツ・運動の推進	6
	（4）高齢期のスポーツ・運動の推進	9
2	地域と連携したスポーツ活動の推進	
	（1）体育協会・スポーツ少年団等関係団体との連携	12
	（2）スポーツ指導者の養成と資質向上	16
	（3）障がい者スポーツの推進	17
3	スポーツ活動における施設の活用	
	（1）学校体育施設の活用	19
	（2）社会体育施設の活用	20

# I 序 説

## 1 計画策定の趣旨

津和野町では、「津和野町教育ビジョン」を踏まえ、平成 28 年 3 月に「津和野町スポーツ推進計画」（以下「第 1 期計画」という。）を策定し、スポーツ・レクリエーションに関する施策を進めてきました。

この間、少子化・人口減少により、指導者の高齢化や競技者の減少が進み、団体スポーツの活動継続が困難になっている状況が見受けられます。さらに、学校部活動の地域移行などスポーツを取り巻く環境が大きく変わってきています。

また、「第 84 回国民スポーツ大会・第 29 回全国障害者スポーツ大会」（以下「国スポ」という。）が令和 12 年(2030 年)に島根県で開催されます。津和野町では、スポーツクライミング競技の開催地になっており、町を挙げて盛り上げ、役員の確保や選手の育成をする必要があります。今後、より一層の普及に取り組み、スポーツクライミングと地域が密着した町づくりを進め、令和 12 年以降にレガシーを継承することが重要です。

そのため、令和 5 年 12 月に「津和野町教育ビジョン」の改定に併せて、第 1 期計画を見直し、これまでのスポーツ施策を継承しつつ、さらなるスポーツ推進を図るために「第 2 期津和野町スポーツ推進計画」（以下「第 2 期計画」という。）を策定します。

## 2 計画の位置づけ

この計画は、「津和野町教育ビジョン」（令和 6 年～令和 10 年）のスポーツ・レクリエーションに関する部門計画として位置づけ、今後のスポーツ推進のために必要な具体的施策の推進計画とします。

## 3 計画期間

計画の期間は、令和 6 年度を初年度とし、令和 10 年度までの 5 か年とします。

## 4 計画の目標

### (1) 青少年の健全育成

発達段階に応じたスポーツを楽しむ場を提供すると共に、未就学児の段階から運動あそびの機会を提供し、家族で運動に親しむことで、家族の絆を深めます。また、学校や地域において、子どもへの指導や環境づくりを進めることで、青少年のスポーツ活動を推進し、健全な育成を図ります。

### (2) 町民の体力向上・健康増進

子どもから高齢者までがスポーツに触れられる機会を増やし、体力向上及び健康増進を図ります。

### (3) スポーツ活動による活性化

スポーツ少年団や体育連盟など各種スポーツ団体を支援・育成し、スポーツ活動を推進します。これにより、住民の連帯感や交流の輪を広げることに繋げ、活性化を図ります。

## 5 計画の検証

計画期間の最終年となる令和 10 年度に計画の進捗状況を検証し、見直しを行います。

## Ⅱ 基本施策

### 1 生涯スポーツ・運動の推進と学校体育の充実

#### (1) 未就学児の運動あそびの推進

##### 【現状】

共働きの増加や少子化の影響により、親子の触れ合いや子ども同士の関わり合いが減少し、家庭や地域における外遊び・集団遊びが減少しています。

また近年では、急速な情報化社会が発展するなかで、乳幼児期から情報機器に触れる子どもの割合が高く、身体を動かす時間の代わりに情報機器と接する時間が増加しています。

このように子どもの生活様式が変化したことで、日常での身体運動が減少したと考えられ、これらのことを要因とした体力低下が問題視されています。

一方、保育園での日ごらの活動における積極的な運動あそびの取り組みや、親子を対象としたスポーツイベントの実施により、幼少期からの体力の向上を図っています。また、津和野町スポーツ推進委員が行っている「地域で取り組む生涯スポーツ推進事業」の活用や、町が主催するイベントで親子が触れ合いながら体を動かす場の提供で運動の習慣化を図っています。

##### 【課題】

外遊びの減少により、昔は遊びの中で自然に身に付いていた、走る・投げる・跳ぶといった基本的な運動能力が低下しています。何もないところで転ぶ子や、少し走るとすぐ疲れてしまう子も見られます。しかし、それらの能力が十分に身につけていないことは、一般的にはあまり知られておらず、外遊びの重要性を広く啓発する必要があります。

運動をする子としない子の二極化が小学校低学年で既に見られるため、未就学児の段階から、年齢に応じた遊びの中で、様々な動きを経験させることが必要となってきます。そのためには、保育園の活動以外でも、親からの働きかけが大切になってきますが、十分に親子で遊ぶ時間がとれていないのが現状です。

こうした状況を改善するためにも、教育委員会と福祉部局とで課を越えた連携の強化を図り、保育園や保護者等へ働きかけていく必要があります。

##### 【具体的な施策】

- ① 保育園と連携し、心も体も豊かに育つために家族で触れ合いながら体を動かすイベントを開催します。
- ② 定期的にスポーツ推進委員等の指導者を保育園に派遣し、各年代に適した運動遊びを推進することで、幼少期から運動する習慣を形成します。

- ③ 保育園や福祉部局と連携し、就学前の子どもに関わる大人に向けた、家庭教育や運動遊びの重要性を学ぶ研修会を実施します。

○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 教育委員会と保育園が連携した家族で体を動かすイベントの延べ参加者数	0人	80人
② スポーツ推進委員等の指導者を保育園に派遣した回数	0回	7回
③ 保育園や福祉部局と連携した、家庭教育や運動遊びの重要性を学ぶ研修会の回数	0回	2回

(2) 小学・中学・高校生のスポーツ・運動の推進

【現状】

小学生について、島根県では、児童の体力向上にむけ、「一日一時間以上体を動かそう」と、提唱していますが、現状は、運動習慣のある子どもとそうでない子どもの二極化が生じています。野球・サッカー・バスケットボール等、スポーツをしている子どももいますが、その割合は少なく、多くは特定のスポーツをしていないのが現状です。そのため、放課後子ども教室や放課後児童クラブを活用し、多くの児童が運動や集団遊びをする機会を設けています。

中学生について、学校体育の中では、スポーツ全領域を履修することが必修となっており、様々なスポーツを行う中で運動能力の向上につながっています。しかし、得意・不得意があるので、不得意競技においては、苦手意識から意欲的に取り組めない生徒もいます。津和野町は部活動において、多くの生徒が運動部に参加しています。また、部活動にない競技に関しても地域のスポーツクラブに所属して活動を行なっている生徒もおり、多くの生徒に運動をする機会があり運動能力向上につながっています。しかし、一方で少子化に伴い、生徒数の減少から団体スポーツが部活動として成り立たない状況もあります。

高校生について、通学距離の問題や勉強等で多忙になることから、中学校まで運動部に加入していた生徒が、高校では運動部を選択しないなど、加入率の低下が見られます。

○各中学校・高等学校における部員数

部活動	日原中学校		津和野中学校		津和野高等学校	
	H27年度	R5年度	H27年度	R5年度	H27年度	R5年度
野 球	6	5	13	8	23	28
バレーボール	10	10	10	13	15	14
卓 球	28	19	13	17	14	15
ソフトテニス			13	15	20	13
陸上競技	37	24			18	9
弓 道					17	22
柔 道					3	
合 唱			12	12	6	5
華 道			5	11		
吹奏楽					16	10
美 術					10	9
グローカルラボ						25
部活動加入数	81	57	66	71	142	150
内運動部加入数	81	57	49	53	110	101
運動部加入率	100%	98%	70%	75%	58%	52%
全 校 生 徒	81	58	66	71	190	195

【課題】

小学生については、スポーツ少年団に所属していない児童にとって、遊びが運動をする機会の中心となりますが、近所に遊ぶ友達が少ない、遊びはSNSやテレビゲーム等が中心となっているといった状況から、体を動かす機会が少なくなっていることが課題です。また、年々子どもが減っているため、スポーツ少年団の存続が難しくなっています。

中学生については、スポーツ少年団の競技が部活動にないものがあり、小学校からの継続した活動ができず、競技力の向上が図りにくいことがあります。また、子どもの減少に伴い、団体競技では人数の偏りがあつたり、合同チームでの大会出場をせざるを得なかったりする状況となっています。さらに、部活動の外部指導者の確保が難しい状況も見られます。

生徒にとって望ましい持続可能な運動部活動を実現するために、運動部活動の地域移行が求められていますが、外部指導者や受け皿の確保が困難なことから、地域連携の方向で体制整備を行っていくことが必要です。

高校生については、部活動数が十分ではなく、スポーツ少年団等で行っていたサッカーやバスケットボールなどの競技を継続して選択できないことが課題です。各種団体が行っているスポーツ教室の情報発信の頻度が地域によって差があり、全町

的に情報が伝わっていないことから、いろんなスポーツに親しむ機会が減っていることも課題です。

### 【具体的な施策】

- ① スポーツ推進委員が行っている「地域で取り組む生涯スポーツ推進事業」を実施し、色々な運動に親しみながら基本的な運動機能の向上を図ります。
- ② スポーツ少年団活動をはじめ、各競技団体の活動を支援します。
- ③ スポーツ関係団体が大会を開催し、参加しやすい体制づくりを進めます。
- ④ 放課後子ども教室や放課後児童クラブを活用した運動の機会確保に取り組み、集団遊びの場を設けます。
- ⑤ 運動部活動への外部指導者派遣事業など、地域にいる指導者を活用すると同時に、学校部活動の地域連携体制の構築を見据えて、指導者の育成や方針を示すための検討委員会設置を図ります。
- ⑥ 中学校の運動部活動において、単独での活動が困難な場合には、合同チームでの活動参加を支援します。
- ⑦ 国スポに向けて、選手の育成・強化に取り組みます。
- ⑧ スポーツ推進委員と体育協会が連携して、指導できる体制づくりを進めます。
- ⑨ 児童生徒の運動意欲向上のために、プロスポーツ選手や実業団スポーツ選手を活用したスポーツ競技の魅力に触れる機会づくりに取り組みます。

### ○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 広報誌やCATVを活用したスポーツ少年団の情報発信回数	0回	12回
② 大会を開催した競技団体数	10回	15回
③ スポーツライミング教室の会員数	0人	20人

### (3) 青年期・壮年期(18歳～64歳)のスポーツ・運動の推進

#### 【現状】

一般的に、青年期から壮年期にかけては、仕事や育児が中心となった生活のため、スポーツをする機会が減少する傾向にあります。本町においても、アンケートの結果から、「日ごろスポーツ活動・運動を行う」の割合は低くなっており、同様の傾向がみられます。同項目について、前回と比較すると、男性は30代で割合が高くなっているものの40代・50代で低下がみられ、女性の結果をみると、30～50代で割合が高くなっています。

一方、「スポーツ活動・運動を行う・見るのが好き」の項目では、前回と同様に男

女ともに高い割合にあります。

また、「スポーツ活動・運動をする理由」で最も多かった回答は、男女ともに「健康づくり」でした。また、「しない理由」で最も多かった回答は、男性は「仕事が忙しい」、女性は「仕事が忙しい」、「家事・育児が忙しい」でした。

以上のことから、本来「スポーツをしてみたい」、あるいは「見ることは好き」など、スポーツ活動・運動に関心はある人は多いが、仕事や育児などが理由で、運動する機会が少ないことがわかります。

### ○スポーツ活動・運動に関するアンケート(※)結果

項目	年度	10～20代 男性	10～20代 女性	30代 男性	30代 女性
日ごろスポーツ・ 運動を行う	H27	42.9%	33.3%	37.5%	25%
	R3	42.9%	33.3%	60.8%	33.3%
スポーツ・運動を 行うことが好き	H27	71.4%	100%	62.5%	66.6%
	R3	71.5%	66.7%	92.4%	66.6%
スポーツを観る ことが好き	H27	85.7%	66.6%	75%	66.7%
	R3	71.5%	100%	77%	66.7%
スポーツ・運動を する理由	H27	健康づくり ストレス解消	健康づくり	楽しい 技術向上	健康づくり
	R3	健康づくり ストレス解消	健康づくり 美容・肥満解消	健康づくり ストレス解消	楽しい 友人との交流
スポーツ・運動を しない理由	H27	仕事が忙しい 好きではない	家事・育児 好きではない	きっかけがない	家事・育児
	R3	仕事が忙しい	家事・育児 仕事が忙しい	仕事が忙しい	家事・育児 きっかけがない
スポーツ・運動に関する ボランティアを行いたい	H27	14.3%	0%	37.5%	8.3%
	R3	14.3%	33.3%	7.7%	11.1%
日ごろスポーツ・ 運動を行う	H27	50%	16.6%	41.7%	30%
	R3	16.7%	30%	33.4%	41.7%
スポーツ・運動を 行うことが好き	H27	87.5%	50%	66.7%	60%
	R3	50.0%	70.0%	100%	66.7%

項目	年度	40代・男性	40代・女性	50代・男性	50代・女性
スポーツを観ることが好き	H27	87.5%	50%	91.7%	85%
	R3	50.0%	80.0%	83.3%	83.4%
スポーツ・運動をする理由	H27	健康づくり	健康づくり 楽しい	健康づくり 友人との交流	健康づくり
	R3	健康づくり	健康づくり	健康づくり 友人との交流	健康づくり ストレス解消
スポーツ・運動をしない理由	H27	仕事が忙しい	きっかけがない	仕事が忙しい	仕事が忙しい 家事・育児
	R3	仕事が忙しい	仕事が忙しい 家事・育児	仕事が忙しい 年を取った	仕事が忙しい きっかけがない
スポーツ・運動に関するボランティアを行いたい	H27	0%	8.3%	33.3%	15%
	R3	33.3%	10%	0%	16.7%

注. スポーツ・運動をする・しない理由は最多回答を記載

※ スポーツ活動・運動に関するアンケート調査の概要

	平成 27 年 (2015 年) 調査	令和 3 年 (2021 年) 調査
調査対象	津和野町在住の 18 歳以上男女	
調査方法	郵送による配布・回収	
調査時期	平成 27 年 10 月 23 日 ～平成 27 年 11 月 6 日	令和 3 年 11 月 25 日 ～令和 3 年 12 月 29 日
抽出方法	無作為抽出	
サンプル数	300 人	300 人
回収数	137 人	125 人
回収率	45.7%	41.7%

【課題】

現状を踏まえて、スポーツ活動・運動に関心があるものの仕事や家事・育児のため気軽にスポーツ活動・運動ができない人に向けた、スポーツへの参加促進やスポーツの機会創出の取り組みが必要といえます。第 1 期計画においても、これらの課題が挙げられており、取り組みの一つとして、地域や各体育連盟のスポーツ行事などの周知について広報等を活用して行ってきました。しかし、各種大会・イベントの案内や結果報告等にとどまり、各連盟やクラブ活動の活動内容を町民に広く伝えるには至らず、その周知方法が今後の課題となっています。

また、公民館や学校、保育園と連携し、それぞれの行事やイベントに併せてスポー

ツや運動を取り入れ、スポーツ活動への参加ができるような取り組みを行っています。イベントによっては、参加者が定着し、参加者同士で交流が生まれるなどの成果が見られますが、一方で参加者が固定されがちで、新規参加者が少ないといった課題もあります。参加への促し方について検討が必要だと考えます。

**【具体的な施策】**

- ① 地域や体育連盟のスポーツ行事や各競技団体の活動内容を町広報誌やCATV、SNS等の情報発信ツールを活用し、情報発信することで、参加を促します。
- ② スポーツ交流会等を開催し、若者の参加を促します。
- ③ 公民館や保育園、地域等と連携・協力し、それぞれで行われる行事に併せて、家族で参加できるスポーツイベントを企画・実施します。
- ④ 短時間でできる体操・ストレッチの方法や効果についての情報発信や、日常での階段利用や散歩の推奨など、家庭や職場の空き時間を利用した運動の普及・啓発を行うことで、体を動かす習慣づくりにつなげます。

○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 広報誌やCATVを活用した体育協会加盟団体の情報発信回数	3回	8回
② 公民館が実施する家族で参加できるスポーツイベントの回数	12回	20回
③ 日ごろスポーツ・運動を行う人の割合(20代～50代)	37%	45%

**(4) 高齢期(65歳～)のスポーツ・運動の推進**

**【現状】**

津和野町の高齢化率(65歳以上の人口比率)は、令和5年12月末現在50.1%と、町民の高齢化が急速に進んでおり、「人生100年時代」が叫ばれるなか、いかに高齢期を健やかに過ごすかが重要となってきています。健やかで豊かに高齢期を過ごすためにもスポーツ・運動は欠かせないものです。

本町の現状をみると、グラウンド・ゴルフやウォーキングなど、元気に活動されている人が多く、日頃スポーツ活動・運動を行っている人は、青年期・壮年期に比べて多いことがアンケート結果からもわかります。

また、第1期計画時と比較しても、各項目において全体的に数値が向上しており、各年代共通してスポーツ・運動への関心の高さがうかがえます。

「スポーツ活動・運動をする理由」をみると、最も多かった回答は、「健康づくり」でした。また、「しない理由」で最も多かった回答は、どの年代も男女ともに「仕事が忙しい」でした。

○スポーツ活動・運動に関するアンケート結果

項目	年度	60代・男性	60代・女性	70代～・男性	70代～・女性
日ごろスポーツ・運動を行う	H27	44.4%	41.2%	70%	57.9%
	R3	60.0%	78.6%	33.3%	65.0%
スポーツ・運動を行うことが好き	H27	66.6%	70.6%	60%	79%
	R3	70.0%	78.6%	75.0%	80.0%
スポーツを観ることが好き	H27	88.9%	76.5%	80%	94.8%
	R3	80.0%	92.9%	100%	90.0%
スポーツ・運動をする理由	H27	健康づくり	健康づくり	健康づくり	健康づくり 友人との交流
	R3	健康づくり ストレス解消	健康づくり 美容・肥満解消	健康づくり	健康づくり 友人との交流
スポーツ・運動をしない理由	H27	仕事が忙しい	仕事が忙しい	体が弱い 年を取った	年を取った
	R3	仕事が忙しい きっかけがない	仕事が忙しい	仕事が忙しい きっかけがない	仕事が忙しい きっかけがない
スポーツ・運動に関するボランティアを行いたい	H27	22.2%	5.9%	20%	10.5%
	R3	10.0%	14.3%	8.3%	20.0%

注. スポーツ・運動をする・しない理由は最多回答を記載

【課題】

アンケートでは、スポーツ活動・運動をするきっかけがないという回答も多くみられたため、地域で気軽に参加できるスポーツ活動・運動の実施と情報提供が必要です。

これまでも健康教室やスポーツ大会、地区民運動会など地域や公民館の運動・健康事業をとおして高齢者のスポーツ・運動参加を促す取り組みを行ってきました。また、高齢者の保健事業や介護予防を行っている部署と連携した各種事業は、高齢者のスポーツ・運動参加のきっかけづくりにつながっており、一定の成果を収めているといえます。しかし、地域によって参加率に偏りが生じ、新規の参加が伸び悩んでいるといった課題もみられます。

また、他の課題として、スポーツ・運動に関するボランティアへの関心の低さが挙げられます。実際に町のスポーツイベントなどにおいて、ボランティアの参加率は年々低下しており、今後のスポーツイベントの運営維持や令和12年開催の国スポに向けた課題といえます。

### 【具体的な施策】

- ① 関係機関・団体と連携し、高齢者を対象とした健康教室やスポーツ大会を開催します。
- ② 公民館や自治会などと連携し、それぞれの事業や行事に併せて、体力測定を実施します。
- ③ 高齢者でも比較的参加しやすいウォーキングやニュースポーツ等への参加を促します。
- ④ スポーツボランティア活動に関する事例の紹介等の普及・啓発活動を通して、ボランティア活動に対する関心を高めます。

### ○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 日ごろスポーツ・運動を行う人の割合（60代以上）	59 %	65 %
② 体力測定への参加者数	79 人	100 人
③ つわの SL 健康マラソンにおける地域ボランティアの数	56 人	80 人

## 2 地域と連携したスポーツ活動の推進

### (1) 体育協会・スポーツ少年団等関係団体との連携

#### 【現状】

少子高齢化や人口減少が進み、各スポーツ団体では会員が固定化され後継者が育たずに活動の停滞や、廃止した団体もあります。

現在、津和野町体育協会には令和5年度、24団体が所属しており、それぞれが大会や教室を実施しています。

畑迫・木部・小川地区には、それぞれ地区体育連盟があり、運動会や各種スポーツを行っています。特に小川地区は、小川地区体育連盟が総合型地域スポーツクラブを取り入れて活動していました。

津和野町スポーツ少年団には、令和5年度現在、6団体、56人の小・中学生が登録しており、それぞれの競技に取り組んでいます。平成27年度と比較すると、団員数がやや減少傾向にあるものの、全体の加入率は著しく減少していませんが、指導者の登録人数が半減しており、後継者不足が顕著になっています。

各公民館においては、健康を守る会や自治会等と連携し、体力測定・ニュースポーツ体験会・健康ウォークやグラウンド・ゴルフ大会等のスポーツ活動・運動を実施しています。

アンケート結果から、今後行ってみたいスポーツにおいて、10代～30代までは、激しい動きを伴うスポーツが多く、40代以降はウォーキングやジョギング、グラウンド・ゴルフといった緩やかな動きのスポーツが多いことがわかります。また、全年代を通して最も多かった回答は、ウォーキング・ジョギングで、次にグラウンド・ゴルフ、スポーツクライミング、登山、サイクリング、卓球、バスケ、水泳と続きます。

また、本町でもスポーツクライミングへの注目が高まっており、令和12年に開催される国スポのスポーツクライミング競技の会場であることから、連盟と協力し、小中学生を中心に体験会などを開催しています。

○スポーツ活動・運動に関するアンケート結果

問：今後行ってみたいスポーツ

年度	10～20代 (男性)	10～20代 (女性)	30代 (男性)	30代 (女性)	40代 (男性)	40代 (女性)
H27	サッカー	テニス	野球	テニス ウォーキング ジョギング	テニス カヌー グラウンド・ゴルフ スノーボード	テニス ウォーキング ジョギング
R3	バスケットボール バレーボール	ダンス バドミントン	ボルダリング	テニス ウォーキング ジョギング	ウォーキング ジョギング	ウォーキング ジョギング

年度	50代 (男性)	50代 (女性)	60代 (男性)	60代 (女性)	70代～ (男性)	70代～ (女性)
H27	グラウンド・ゴルフ ウォーキング ジョギング	ウォーキング ジョギング	ソフトボール ラージボール 卓球 グラウンド・ゴルフ ウォーキング ジョギング	グラウンド・ゴルフ	ウォーキング ジョギング	グラウンド・ゴルフ
R3	卓球	ウォーキング ジョギング	ウォーキング ジョギング	ウォーキング ジョギング	グラウンド・ゴルフ	グラウンド・ゴルフ

注. 最多回答を記載

○令和5年度 津和野町スポーツ少年団登録状況

		団員											指導者			
		～小3			小4～小6			中学生			合計					
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
津和野少年野球	27年度	0	1	1	9	3	12	0	0	0	9	4	13	2	0	2
	R5年度	2	0	2	12	3	15	0	0	0	14	3	17	3	0	3
津和野MBC	27年度	3	0	3	9	0	9	0	0	0	12	0	12	1	1	2
	R5年度	3	0	3	4	0	4	0	0	0	3	4	7	1	1	2
津和野柔道	27年度	2	1	3	2	1	3	1	0	1	5	2	7	6	1	7
	R5年度	4	0	4	4	1	5	0	1	1	8	2	10	4	0	4
津和野剣道	27年度	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	0	2
	R5年度	2	1	3	1	0	0	0	0	0	3	1	4	1	1	2
日原サッカー	27年度	2	1	3	4	1	5	7	0	7	13	2	15	6	0	6
	R5年度	0	0	0	0	0	0	7	1	8	7	1	8	2	0	2
日原少年剣友会	27年度	2	1	3	4	1	5	7	0	7	13	2	15	6	0	6
	R5年度	0	0	0	0	0	0	7	1	8	7	1	8	2	0	2
日原バスケットボール	27年度	0	4	4	0	9	9	0	0	0	0	13	13	2	1	3
	R5年度	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合計 (団登録人数)	27年度	8	7	15	27	16	43	8	0	8	43	23	66	21	3	24
	R5年度	13	1	14	24	6	30	8	4	12	41	15	56	14	2	16
合計 (児童・生徒数)	27年度	/	/	131	/	/	118	/	/	151	/	/	400	/	/	/
	R5年度	/	/	120	/	/	130	/	/	129	/	/	379	/	/	/
加入率 (%)	27年度	/	/	11.5	/	/	36.4	/	/	5.3	/	/	16.5	/	/	/
	R5年度	/	/	11.7	/	/	23.1	/	/	9.3	/	/	14.8	/	/	/

### 令和4年度 津和野町体育協会状況

団体・連盟	会員数(26年度)	会員数(R4年度)	町大会の有無	教室の有無
陸上競技	15人	28人	なし	○
野球	90人	103人	○	なし
バレーボール	5クラブ	4クラブ	○	○
弓道	20人	19人	○	○
剣道	20人	26人	○	○
卓球	9人	16人	なし	なし
テニス	20人	16人	なし	なし
柔道	5人	6人	なし	○
バドミントン	14人	18人	なし	○
ゲートボール	61人	24人	○	○
サッカー	8人	13人	なし	○
カヌー	15人	7人	なし	○
自然の会	46人	10人	なし	○
バウンドテニス	11人	10人	なし	なし
バスケットボール	5人	5人	○	○
サイクリング	14人	25人	なし	○
女子ソフトボール	22人			
スキー	12人	7人	なし	○
グラウンド・ゴルフ	233人	111人	○	○
フットサル	23人	22人	なし	○
ラージボール卓球	19人	17人	なし	○
畑迫体育				
木部体育				
小川体育				

## 【課題】

アンケート結果では、「今後行ってみたいスポーツ」について、「グラウンド・ゴルフ」や「スポーツクライミング」、「卓球」といった津和野町体育協会の各連盟で活動しているスポーツも多くみられますが、体育協会の各連盟が日頃どのような活動をしているか、また事務局が誰かといった声が多く、情報提供が不足しています。

体育協会・スポーツ少年団は、少子化に伴い、会員の数も登録人数も減少しており、団員の確保が課題となっています。

総合型地域スポーツクラブが効果的に活用できるのかどうか、地区の状況を見ながら検討していく必要があります。

## 【具体的な施策】

- ① 体育協会と連携し、スポーツクライミングをはじめとするスポーツ活動の普及に繋がります。
- ② 行政が住民とスポーツ団体のパイプ役になり、住民が求めているスポーツ団体の情報を様々な媒体を利用して提供します。
- ③ 体育協会とスポーツ推進委員が協力し、運動することの楽しさや機会づくりのため各世代のニーズに応じたスポーツイベントの充実を図ります。
- ④ 小学校を通じてポスター掲示や保護者へのチラシを配布するなど、スポーツ少年団の活動を支援し、加入促進を図ります。

## ○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 体育協会の加盟団体数	24 団体	25 団体
② スポーツ団体に所属している人数	480 人	480 人
③ 体協とスポーツ推進委員が連携したスポーツイベントの回数	0 回	1 回

## (2) スポーツ指導者の養成と資質向上

### 【現状】

津和野町スポーツ推進委員は、令和5年度現在、12人が各地域でスポーツ指導や援助を行っています。健康福祉課、公民館、自治会などと連携し、体力測定や健康状態のチェック、町の体育行事への協力、町内保育施設での運動あそびの指導など、活動の幅は年々広がってきています。また、中国地区、島根県、益田鹿足地区でそれぞれスポーツ推進委員研修会が毎年実施されており、各自治体の取り組みの共有や、ニュースポーツなどの体験会を通じてスキルアップを図り、公民館と協力し町内へ普及活動を実施しています。

津和野町スポーツ少年団の指導者は、令和5年度現在、16人が登録を行ってお

り、各団においてスポーツ指導を行っています。また、平成 27 年度より、各団において、認定員資格を有する 2 人以上が中心的指導者としての役割を担ってきました。

中学校の運動部活動において、地域スポーツ指導者を外部指導者として、日原中学校へ 2 名、津和野中学校へ 2 名派遣し、競技力向上を図っています。

### 【課題】

スポーツ少年団では、指導者の資質向上のため、令和 6 年度以降、単位団登録条件として「団員 10 名以上、JSP0 公認資格<sup>※1</sup>を有する指導者 2 名以上での構成」を満たすことが必要になりました。少子化・人口減少によって団員の確保や指導者の確保が困難な中、逆に単位団の登録が厳しい状況に陥る可能性もあります。

各競技において、審判員や指導者が不足していることも課題です。例えば、今後、各競技で審判員や中心となる指導者の確保が必要となってきます。

また、少子化によって部員数が減少する中、生徒がスポーツ活動に継続して親しむことができる機会を確保するために、部活動の地域連携を進める必要がありますが、地域で受け皿となる指導者不足が課題です。

※1 「JSP0 公認資格」・日本スポーツ協会公認指導者資格

### 【具体的な施策】

- ① スポーツ指導者に対して、スポーツハラスメントやドーピングなどのスポーツ倫理についての研修会を開催します。
- ② スポーツ推進委員の事業の取りまとめや情報提供など、活動を支援します
- ③ スポーツ少年団指導者登録制度の改正に伴い、JSP0 公認資格の取得を促します。
- ④ 各スポーツ団体と連携することで地域のスポーツ指導や審判の資格取得活動を支援し、「指導員・審判員・競技役員」の育成及び資質向上を図ります。

### ○主要指標

指標名	現状 (R5 年)	目標 (R10 年)
① 指導者を対象としたスポーツ倫理の研修会の開催数	0 回	1 回
② スポーツ少年団の指導者数	16 人	16 人
③ スポーツクライミングの指導者・審判員の人数	3 人	12 人

## (3) 障がい者スポーツの推進

### 【現状】

障がい者が参加するスポーツ活動については、社会福祉協議会が主体となって実施していますが、一般のスポーツ関係団体との連携は見られません。

スポーツ推進員として、誰でも一緒に出来るニュースポーツを取り入れて、社会福祉協議会や公民館と連携して、ボッチャなどの体験会や研修会を開催し、様々な世代の方に触れてもらう機会を作っています。

町民にパラスポーツを知ってもらい、理解と共感を深めてもらうとともに、障がい者にスポーツの楽しさや効用を知ってもらい、スポーツを始めるきっかけを提供することが求められています。

### 【課題】

これまで健常者と障がい者が一緒にスポーツ活動をする機会がありませんでしたが、今後関係団体にスポーツ推進委員等が関わり、一緒にスポーツ活動をしていけるような体制づくりが必要です。

県内で障がい者スポーツに関する研修会は開催されていますが、障がいのある人がどのようなスポーツをしたいのかなどのニーズを把握することが困難なため津和野町内での研修会はこれまで開催されておられません。今後、各関係団体と連携し、研修会の開催に向けて検討していく必要があります。

障がいのある人もない人も一緒にスポーツを楽しもうとする意識の醸成が必要であり、パラスポーツについて理解し、広げていくことが大切になってきます。

### 【具体的な施策】

- ① スポーツ推進委員を中心に、関係団体と一緒にパラスポーツやニュースポーツを行うことを促します
- ② 社会福祉協議会と連携し、学校や地域でパラスポーツの研修会を行い、普及に努めます。
- ③ スポーツ推進委員や社会福祉協議会などの関係団体と連携し、理解を深めるために誰でも参加できるパラスポーツやニュースポーツの大会を実施します。

### ○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① パラスポーツ・ニュースポーツの体験会や研修の回数	4回	6回

### 3 スポーツ活動における施設の活用

#### (1) 学校体育施設の活用

##### 【現状】

町内の全学校で、学校体育施設を開放しており、町民のスポーツ活動・運動の場として活用されていますが、スポーツ少年団も含め、多くのスポーツ関係団体が社会体育施設を利用するようになったため、学校施設を利用する団体の数は大きく減少しています。

一方で、小学校の体育館は、「放課後児童クラブ」や放課後における子どもの体験活動の場となっている「放課後子ども教室」が、活動の中にスポーツも取り入れており、子どもの運動の場として利用されています。

また、屋外プール施設については、津和野小学校と木部小学校のプールが改修され、水泳の授業も再開されました。一部学校では、保護者や地域の協力により夏季休業中の児童へのプール開放を行っています。

中学校や高校においては、部活動での利用が主となっていますが、津和野中学校には、令和3年度にスポーツライミング施設を設置し、多くの町民に利用されています。また、津和野高校は SL 健康マラソンの会場としてグラウンドと体育館を活用しています。

○津和野町内学校体育施設開放状況

学校	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
青原小学校	延べ日数	46日	36日	35日
	延べ利用者数	502人	369人	379人
木部小学校	延べ日数	1日	4日	3日
	延べ利用者数	150人	250人	430人
津和野小学校	延べ日数	9日	253日	259日
	延べ利用者数	157人	4,560人	5,242人
日原小学校	延べ日数	127日	37日	115日
	延べ利用者数	1,302人	667人	1,706人
津和野中学校	延べ日数	60日	100日	45日
	延べ利用者数	600人	1,000人	450人
日原中学校	延べ日数	226日	315日	308日
	延べ利用者数	3,092人	3,572人	3,458人
津和野高校	延べ日数	1日	2日	2日
	延べ利用者数	200人	350人	650人
合計	延べ日数	470日	747日	767日
	延べ利用者数	6,023人	10,768人	12,315人

### 【課題】

バスケットボールのゴールや屋外遊具などの定期点検により、老朽化による修繕や撤去が増えている状況となっており、大規模な改修が必要な設備もある状況となっています。また、グラウンドの環境整備は、児童生徒の減少、教員の業務増などから学校教育の中だけで行うには限界があるため、整備が行き届かない状況も出てきています。

プールの一般開放についての要望もありますが、管理人の確保や責任の所在の明確化など課題が大きいいため、慎重に検討を進める必要があります。

また、国スポに向けて、学校部活動やクラブチームの活動によりスポーツクライミング競技の選手育成を行う場合の施設が十分に整備できていない状況となっています。

### 【具体的な施策】

- ① 学校体育施設開放を引き続き実施し、町民のスポーツ活動・運動の場として活用します。
- ② 国スポに向けた選手育成・強化のため必要な施設改修を進めます。
- ③ 学校と地域と連携して屋外施設環境整備を行っていきます。
- ④ 学校プールの一般開放については、学校と地域と相談しながら検討します。

### ○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 学校体育施設の利用人数	12,315人	13,000人

## (2) 社会体育施設の活用

### 【現状】

町内には運動広場や体育館等の社会体育施設が、町民のスポーツ振興を目的として設置されており、スポーツ教室や各種大会等で利用されています。

特に、日原特定公園には、令和3年度にスポーツクライミング施設として、ボルダ一競技に加えリード競技が体験できる施設を設置し、体験会の実施などにより、広く町民に利用されています。

その他にも廃校になった学校の体育館や校庭を利用して各地域でのスポーツイベントやモルック、スポーツクライミングといったこれまでになかったスポーツ活動なども行われています。

また、グラウンド・ゴルフ場が町内に整備され、高齢者を中心に活動が活発に行われています。

## 【課題】

旧学校体育館や校庭などの施設について、今後も地域で有効活用していく必要がありますが、財政面から施設の維持管理を十分に行うことが出来ないため、利用者や地域住民の協力を頼らざるを得ない状況となっています。

また、耐震補強工事が未実施となっている施設もあり、誰もが安心・安全に施設を利用するためにも、耐震補強やバリアフリー等の改修を実施する必要があります。

さらに、国スポに向け、日原特定公園にスポーツクライミング施設を整備したが、選手育成のために、さらに施設の充実を図る必要もあります。

このように、町内には旧学校施設や社会体育施設など、多くのスポーツ活動が出来る施設があり、大きい財政負担が生じている状況です。財政面や人口減少の状況を踏まえ、住民ニーズに合わせた施設の再整備計画を立て、人口規模にあった施設整備を行う必要があります。

## 【具体的な施策】

- ① スポーツ教室やイベントについて情報提供を行い、施設の利用を促します。
- ② 旧学校体育館や校庭などの施設環境整備を地域と連携して行います。
- ③ 津和野体育館の耐震補強について、誰もが安心・安全に利用できるよう進めます。
- ④ 国スポ用の施設整備を図ります。
- ⑤ 町内の旧学校施設や社会体育施設について、人口減少の状況を踏まえ、住民ニーズに合わせた施設の整備を計画的に進めます。

## ○主要指標

指標名	現状 (R5年)	目標 (R10年)
① 社会体育施設の利用人数	34,083人	35,000人
② スポーツクライミング施設の利用人数	909人	2,500人

## 津和野町公共スポーツ施設設置状況

種別	施設名	所在地	連絡先
運動広場	津和野運動広場	田二穂 42	72-2070
運動広場	木ノ口運動広場	枕瀬 427-1	74-0302
屋外プール	日原プール	日原 536-1	74-0302
体育館	津和野体育館	後田口 66 乙	72-2070
体育館	小川体育館	寺田 64	72-0445
体育館	日原体育館	日原 573-1	74-0302

種 別	施 設 名	所 在 地	連 絡 先
体育館・運動広場	畑迫運動場	部栄 375	72-2119
体育館・運動広場	須川運動場	相撲ヶ原 40	74-0711
体育館・運動広場	旧木部中学校体育館・運動場	中川 405	73-0001
体育館・運動広場	名賀地域センター	名賀 860	72-1854
体育館・運動広場 庭球（屋外）	日原特定公園	池村 2863-2	74-1253
庭球（屋外）	津和野テニスコート	田二穂 42	72-2070
弓道場	木部公民館弓道場	中川 416	72-1854
弓道場	左鐙弓道場	左鐙 905	74-0302
グラウンド・ゴルフ場	津和野町グラウンド・ゴルフ場	池村 1997-1	74-2045
グラウンド・ゴルフ場	道の駅津和野温泉なごみの里グラウンド・ゴルフ場	鷲原イ 275	72-4122
キャンプ場	枕瀬山森林公園	枕瀬 816-8	74-1143

令和6年1月現在

## 津和野町公共スポーツ施設利用状況

施 設 名	項 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
津和野運動広場	延べ日数	2日	5日	1日
	延べ利用者数	30人	810	20人
木ノ口運動広場	延べ日数	120日	120日	120日
	延べ利用者数	800人	800人	800人
日原プール	延べ日数	0日	27日	29日
	延べ利用者数	0人	319人	293人
津和野体育館	延べ日数	269日	190日	318日
	延べ利用者数（件数）	9,095件	9,242件	6,252件
小川体育館	延べ日数	238日	243日	187日
	延べ利用者数	4,459人	4,569人	3,371人
日原体育館	延べ日数	226日	315日	308日
	延べ利用者数	3,092人	3,572人	3,458人
畑迫運動場	延べ日数	272日	150日	171日
	延べ利用者数	1,720人	1,220人	1,384人
左鐙体育館	延べ日数	36日	125日	105日
	延べ利用者数	332人	933人	1038人

施設名	項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度
須川運動場	延べ日数	27日	20日	16日
	延べ利用者数	222人	155人	196人
旧木部中学校体育館・ 運動場	延べ日数	38日	15日	41日
	延べ利用者数	431人	133人	466人
名賀地域センター	延べ日数	46日	63日	66日
	延べ利用者数	97人	153人	123人
日原特定公園	延べ日数	264日	277日	385日
	延べ利用者数	2,960人	3,104人	3,536人
津和野テニスコート	延べ日数	166日	188日	200日
	延べ利用者数	1,582人	2,027人	1,891人
木部公民館弓道場	延べ日数	7日	7日	8日
	延べ利用者数	82人	80人	85人
左鐙弓道場	延べ日数	151日	151日	151日
	延べ利用者数	278人	278人	278人
津和野町グラウンド・ゴ ルフ場	延べ日数	257日	225日	252日
	延べ利用者数	8,146人	6,319人	7,747人
なごみの里グラウンド・ ゴルフ場	延べ日数	161日	178日	171日
	延べ利用者数	3,066人	3,446人	3,145人
枕瀬山森林公園	延べ日数	158日	160日	162日
	延べ利用者数	184人	292人	312人

## 津和野町スポーツ推進計画策定委員会委員名簿

委員会役職	職	氏 名
委員長	津和野町体育協会 会長	滝元 三郎
副委員長	津和野町スポーツ推進委員の会 会長	原田 悦次
委員	スポーツ少年団本部長	東崎原 直
委員	日原小学校 校長	松本 徹
委員	日原中学校 校長	小田 充男
委員	津和野高等学校 教諭	藤原 真介
委員	日原保育園 園長	田原 裕子

## 津和野町スポーツ推進計画策定経過

<策定委員会>

第1回 令和6年 1月24日（水） 13：30～

第2回 令和6年 2月19日（月） 10：00～

第3回 令和6年 3月21日（木） 13：30～